

平成 15 年 8 月 12 日

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況 (連結)

上場会社名 株式会社日本ユニパックホールディング(コード番号:3893 東京、大阪、名古屋第一部)
(URL <http://www.nipponunipac.com>)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 三好 孝彦
問合わせ先責任者 役職名 取 締 役 伊藤 恵介 (03)3218-9300

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

連結業績の作成に関して準拠した基準 : 中間連結財務諸表作成基準

(注) 固定資産の減価償却の方法について中間見積り額のうち当第 1 四半期分を計上する等簡便的な方法を採用しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況

連結 (新規) 12 社 (除外) 7 社 持分法 異動なし

公認会計士または監査法人による関与の有無 : 無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期の業績概況(平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16 年 3 月期第 1 四半期	297,619	12,670	10,324	4,790
(ご参考)15 年 3 月期	1,165,450	50,450	39,671	4,880

	1 株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
16 年 3 月期第 1 四半期	4,392 94	4,215 60
(ご参考)15 年 3 月期	4,283 53	4,137 37

(注) 当期より四半期業績概況の開示を行っておりますので、前年同期の記載は省略しております。

(2) 経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等

当第 1 四半期の連結経営成績は、売上高が 2,976 億 19 百万円、営業利益は 126 億 70 百万円、経常利益 103 億 24 百万円、当期純利益は 47 億 90 百万円となり、概ね当初計画通りに推移しております。

事業の種類別セグメントの売上の概況および業績については以下の通りです。

紙・パルプ事業

主力の洋紙は、新聞用紙の国内販売量が頁数の減少や昨年のワールドカップ需要の反動などにより前年同期に比べて減少しましたが、一般洋紙の国内販売量はほぼ前年並みで推移しました。洋紙国内価格は昨年秋に実施した価格復元の水準を維持しております。

板紙は、段ボ・ル原紙の国内・輸出版売量が前年同期に比べて減少しましたが、価格は前年

同期に比べてほぼ横這いとなりました。家庭紙は、前期末に発売した新製品の販売が好調に推移し、販売数量、売上高ともに前年同期に比べて増加しました。

以上により売上高は2,250億23百万円、営業利益は103億2百万円となりました。

紙関連事業

「ピュアパック」に代表される液体用紙容器は、茶系飲料や健康飲料の販売が下支えし、前年同期に比べてほぼ横這いとなりました。また化成品は塗料用の塩素化ポリオレフィンが堅調でしたが、景気低迷を受けて土木用CMCは低調に推移しました。

以上により売上高は311億38百万円、営業利益は12億39百万円となりました。

木材・建材・土木関連事業

木材・建材・土木関連事業は、新設住宅着工数が前年並みで推移するなか、MDFの低ホルマリン品の販売は好調でしたが、本年7月の改正建築基準法施行に向けた合板等の買い控えもあり、売上高はほぼ前年並みとなりました。

以上により売上高は214億46百万円、営業利益は2億12百万円となりました。

その他の事業

清涼飲料事業や運送業などその他の事業は、売上高200億11百万円、営業利益は9億17百万円となりました。

(3) 当第1四半期において、企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

前期決算発表時(平成15年5月23日)に公表いたしました当期業績予想の修正はありません。

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	円	銭
中間期	590,000	23,000	10,000	9,170	42
通期	1,180,000	57,000	26,000	23,843	09

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであります。実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上

添付資料

- ・ グル - プ事業別再編の状況
- ・ セグメント情報

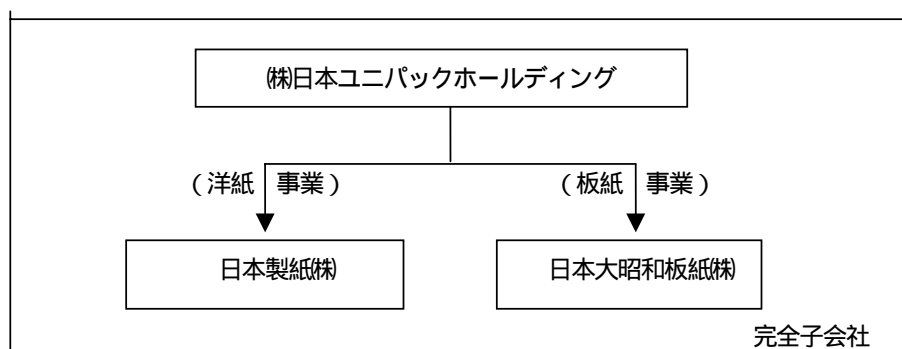
グループ事業別再編の状況

当企業グループは、本年4月、昨年来推進してまいりました洋紙事業、板紙事業の両事業について、事業別のグループ企業の統合、再編を完了致しました。

洋紙事業については、日本製紙株式会社、大昭和製紙株式会社、及び両社の紙の共同販売会社である日本紙共販株式会社の3社合併を実施し、新生「日本製紙株式会社」を発足させました。

板紙事業については、日本板紙株式会社を核として設立した「日本大昭和板紙株式会社」のもとに、日本製紙グループの東北製紙株式会社、大昭和製紙株式会社の本社工場吉永事業所の経営を移管し、グループ板紙事業の経営を一本化いたしました。

今後は、グループ各社が最大限の経営効率化を追求し、株主価値の向上を図ってまいります。



セグメント情報

平成16年3月期第1四半期 (15.4.1~15.6.30)

(単位：百万円)

	紙・パルプ事業	紙関連事業	木材・建材・土木関連事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	225,023	31,138	21,446	20,011	297,619	-	297,619
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	2,099	1,833	7,969	8,592	20,494	(20,494)	-
計	227,123	32,971	29,415	28,604	318,114	(20,494)	297,619
営業費用	216,821	31,732	29,203	27,686	305,444	(20,494)	284,949
営業利益	10,302	1,239	212	917	12,670	-	12,670

(各事業区分の主要製品)

紙・パルプ事業.....洋紙、板紙、家庭紙、パルプ、製紙原料

紙関連事業.....化成品、紙加工品、段ボール

木材・建材・土木関連事業.....木材、建材、土木建築

その他の事業.....飲料、運送業、レジャー事業